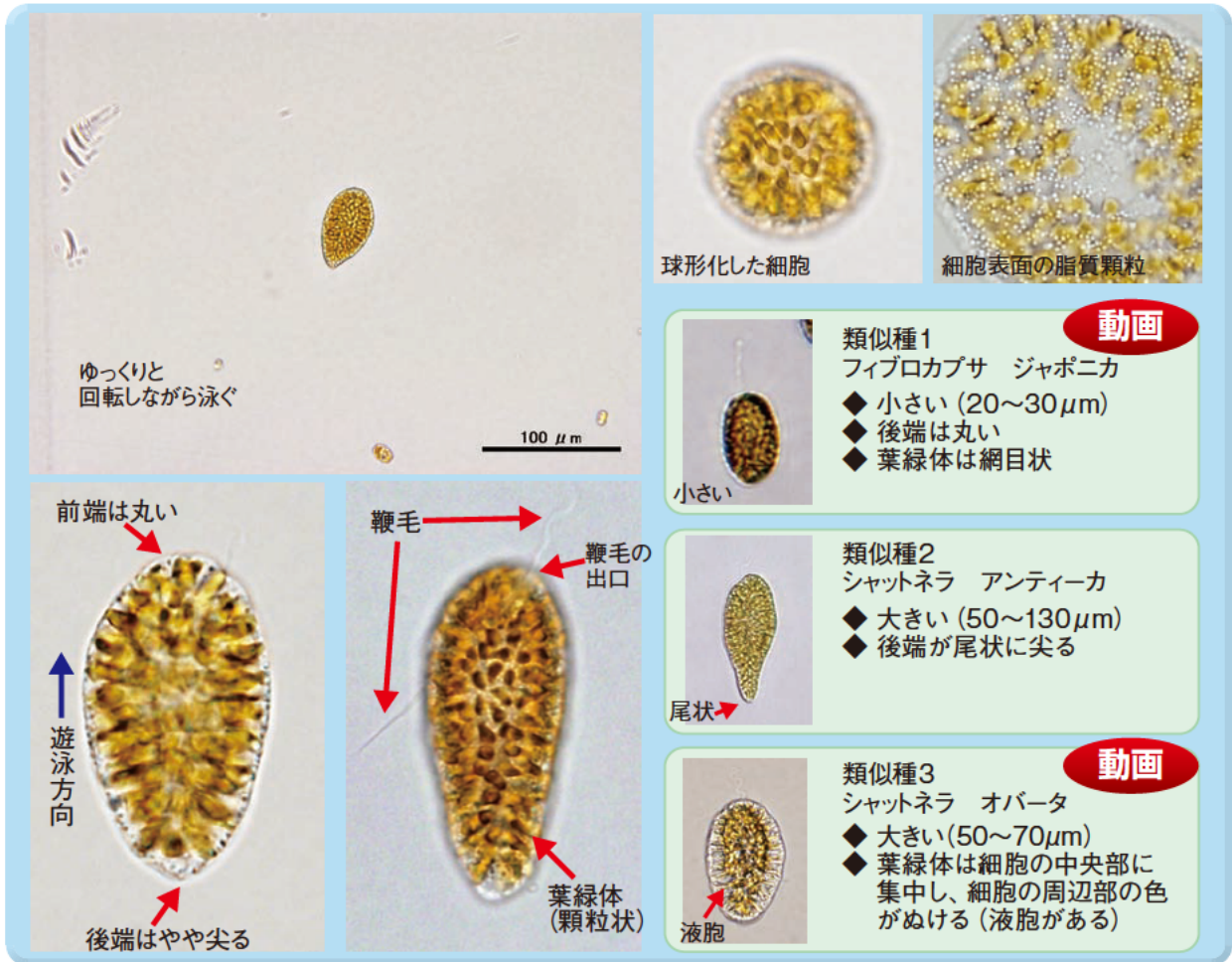


シャットネラ マリーナ(ラフィド藻)

(*Chattonella marina*)

動画



大きさ 長さ30~50μm、幅20~30μm

形態 色は黄褐色~茶褐色。細胞は紡錘形で、後端がわずかに尖る。ほぼ同じ長さの鞭毛が2本あり、前方と後方に伸びる。顆粒状の葉緑体が、細胞全体に放射状に配列する。細胞の大きさや形が変化するため、類似種(特に、シャットネラ アンティーカ(*Chattonella antiqua*))との区別が難しい場合がある。

動き ゆっくりと回転しながら泳ぐ。

旧名称 ホルネリア マリーナ(*Hornellia marina*)

漁業への影響：数百細胞/mlを超えると魚介類のへい死を引き起こす危険性がある。魚類の他に、巻貝(アワビ、サザエなど)、二枚貝(アコヤガイ、カキ、アカガイなど)、甲殻類(カニ、エビなど)、軟体動物(タコなど)などにもへい死事例がある。魚類以外の生物に対する毒性は良くわかっておらず、へい死原因には赤潮にともなう貧酸素化が影響している可能性もあるが、魚類と同様の注意が必要である。

漁業被害：昭和52年に熊野灘沿岸で赤潮が発生し、養殖魚の他、アワビ、サザエなどの巻貝にも被害が発生。

発生海域：伊勢湾~熊野灘沿岸

発生時期：5~7月頃(夏季中心)